

平成21年10月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

行田八幡山古墳の被葬者に関する管見

友の会会員 土屋 幸子 (松戸市)

私は行田市若小玉で生を受けた。子供の頃は自転車に乗って、近くの八幡山古墳でかくれんぼしたり、鬼ごっこをしたりして遊んだ。その頃は今のように整備されてなく、天井石が落ちていたり、側壁が抜き取られていたりしていたが、危険ではなく遊ぶのには打って付けの場所であった。桜の木が植えられていて、春はおにぎりを持って行って皆で食べたりした。

中学生の頃、八幡山古墳の近くの地蔵塚古墳で線刻画が発見された。その記事は片隅の小さな記事であったが、日曜日に自転車で見に行った。発掘している人が何人かいて、私が線刻画を見に来たというと、これが線刻画だよと案内してくれた。その線刻画を見た時「なんだか子供のいたずら書きみたいだな」と思ったが、偉い人が新聞発表しているのだから間違いないのだと納得して、お礼を言って帰ってきた。しかし、あの時感じた疑問を質問していたら、もっと色々なことが分かっただろうと悔やまれる。

同じような思いを、八幡山古墳の被葬者にも感じる。八幡山古墳の被葬者は、『聖徳太子伝暦』に登場する、物部連兄麻呂というのが通説のようだ。インターネットで八幡山古墳の被葬者と検索すると、どれも物部連兄麻呂とでてくる。理由は八幡山古墳から漆塗り木棺の破片（この破片が薄いので別のものという意見もある）が出土していて、この漆塗り木棺は高貴な人にしか使われないからということだ。子供ころに遊んだ古墳の主が遠い都の人であり、その理由が漆塗り木棺に入れるのは高貴な人だからということに疑問に思う。この問題に対して管見を述べてみようと思う。

被葬者の根拠とされる『聖徳太子伝暦』は平安時代前期に成立している。近年「聖徳太子、像そのものが揺らいでいる。まして、甲斐の黒駒に乗って、空を飛び斑鳩から飛鳥に行き政治を掌り、富士山まで登ったという話を伝える『聖徳太子伝暦』をその史料とすることができるだろうか。

2005年9月に八幡山古墳から2～3キロメートル離れた、行田市小針遺跡（一定の出土範囲を持つ小針型杯がある）から「丈部鳥麻呂」という人名が刻まれた「紡錘車」が発見された。この「丈部」は岸俊男氏によると、稲荷山「金錯銘鉄剣」に刻まれた「杖刀人」から「杖部」となり「丈部」となったということだ。又、正倉院の資料にこの地域の有力者として、「丈部直不破麻呂」という人物が記されているそうだ。「丈部鳥麻呂」と刻まれた「紡錘車」が発見された住居跡は、9世紀前半なので7世紀前半から中頃の八幡山古墳の被葬者ではない。しかし、なにやら怪しげな伝説を伝える『聖徳太子伝暦』に登場する人物よりは、埼玉古墳群の近くに出土する「杖刀人」→「杖部」→「丈部」と変化して、正倉院の記録にも残り、「紡錘車」にも刻まれた「丈部」氏のほうが被葬者としては正当性が有るように思えるが、いかがなものでしょうか。

当会は「花王・コミュニティミュージアム・プログラム2009」から

助成金（50万円）をいただきました

このプログラムは、地域に根付いたミュージアムを拠点とした市民活動が活発化することを願って2007年から実施されているもので、花王（株）が助成されています。

当会は「博物館からキックオフ事業『ワークショップ～5人囃子と語る』』という事業を博物館との共催で展開することとして、その事業に対しての助成金をいただくものです。

118件の応募のうち、継続3年目助成5件、継続2年目7件、新規助成16件の計28件が、プログラムの助成対象として選ばれました。

それぞれが、博物館、美術館を拠点として行なわれる事業で、興味をひくものとしては、大田区立郷土博物館分館「大森海苔のふるさと館」や静岡県立登呂博物館における展示室を舞台として演劇表現、兵庫県佐用町昆虫館のガチャポンを利用して昆虫のことを学べる缶バッジやカードを販売するシステム構築、野田市立郷土博物館の出前スライド、街歩きガイドマップの作成、大垣市守屋多々志美術館による「大垣まち歌舞伎」の実施～などがあります。

県立博物館を拠点として行われるのは次のようなものです。

- 1.山梨県立科学館 「みんなの星空～さわって感じる絵本と広がるラジオから」
2. // 「小児科病棟はみんなのミュージアム」
- 3.兵庫県立人と自然の博物館 「簡単で効果あり！ ニュータウンの自然を再生する方法を教えます」
- 4.千葉県立中央博物館 「住民と博物館の連携によるフィールドミュージアム創造プロジェクト」
- 5.岩手県立博物館 「つなぐ『いのち』～ミュージアムからつながる産育」
- 6.兵庫県立考古博物館 「大中遺跡を体験しよう！（弥生の村ってどんな村??）」

当会の計画内容は次のとおりです。

- 1.雛人形段飾り展示の実施
- 2.ワークショップ会場（簡易能舞台）の製作
- 3.ワークショップの実施＝5人囃子楽師を招き、楽器演奏実演、子どもたちの演奏体験＝
<3月7日（日） 午前・子ども対象 午後・大人対象>
- 4.解説講座の実施＝能に使われる楽器から入る「能楽入門講座」
<5月と8月に予定>
- 5 解説パンフレットの作成

その趣旨は次のとおりです。

- 1.博物館のリニューアルに花を添える
- 2.雛人形段飾りを別の視点から見る
- 3.地域産業、観光とのネットワーク作り
- 4.友の会会員の協働作業によるチームワーク醸成

ぜひ、当会のはじめての助成事業にあなたのご協力を！

友の会トピックス

1. 急 募 日 曜 大 工 さ ん ! !

前ページのとおり、来年の3月7日(土)には当会が運営主体となって、「五人囃子と語る」(仮題)を開催することとなりました。このために簡易能舞台を作ることとなります。

もちろん、「簡易」能舞台で、縦横90cm、高さ30cmの立方体の箱(サイコロ)を厚さ12mmのベニヤ板で製作します。数は、15個前後を完成させ、組み合わせて使います。

このサイコロ作りにご協力いただける方をできるかぎり多数、募集いたします。木材はすべてプリカットしたものを使う予定ですから、おうちで棚、椅子、犬小屋など、日曜大工の実績のある方はもちろん、実績のない方でも、十分にお働きいただけます。

あなたの「手」を博物館のイベントのためにお貸しくださいますよう、お願いいたします。具体的な日程は未定ですが、ぜひ、お心つもりをいただきますよう、お願いいたします。

<現時点でのおおよそのイメージは次のとおりです>

○作業は11月~12月の平日、1~2日をかけて博物館内で行う。○工具は出来る限り、博物館で用意。○無償ボランティアとする。昼食におにぎり程度は用意したい。

2. 同封のチラシ「埼玉県博物館連絡協議会(埼玉博連)の研修会へ、積極的にご参加ください」

博物館さんから参加のお誘いをいただきました。せっかくの機会ですから、日程が許される方はご参加ください。

参加費はバス代等の3,000円プラス昼食代1,500円と格安でもあります。

ただ、申込み締切が切迫していますのが難点です。ご参加希望の方は至急ご連絡を博物館の服部さんまで。

3. これからの友の会のイベントについて

友の会は博物館の休館中でも、元気にイベントを実施いたします。お友達もお誘いのうえ、賑々しく?ご参加ください。

○11月15日(日)「林 宏一先生に教えていただきながら拝観する越生・毛呂山・仏像・優品」
=別ページをご参照ください=

○12月13日(日)「博物館・服部武さんと行く小鹿野町・飯田八幡神社のお祭り」
=歌舞伎、火縄銃演武、大名行列が一挙見られるバスツアーです=

○1月16日(土)「嵐山史跡の博物館元館長・梅沢太久夫さんとめぐる中世・比企の城館跡」
=国指定史跡となった四つの城館跡をまとめてめぐる空前絶後のツアー=
<2月16日(火) 博物館リニューアルオープン>

○2月27日(土)「神社と日本文化—伊勢神宮と出雲大社の創祀—」
=国立歴史民俗博物館・新谷尚紀教授の講演をいただきます=

○3月7日(土)友の会・博物館共催「ワークショップ・5人囃子と語る」
=「ひな祭り→5人囃子→能楽」という発想で、これは能楽入門でもあるイベントです=

○3月28日(日)「太田道灌と長尾景春」
=駿河台大学・黒田基樹准教授のご講演をいただきます=

○3月(日時未定) 遺跡発掘調査現場の見学会
<お申込みはニュースでお知らせの都度、お願いいたします>

林 宏一先生に教えていただきながら拝観する

越生・毛呂山・仏像・優品

○ご説明 林 宏一先生（東京家政大学教授、埼玉県立博物館・元館長） ○実施日 平成21年11月15日（日） ○集

合 ① JR大宮駅西口、ソニックビル西側・午前8時 ② 本川越、Pepe前、交番横・午前8時45分 ○参加費 6千

円（バス代・昼食・資料代など） ○懷中電燈、小型の望遠鏡などお持ちでしたらご持参ください ○大宮帰着5時半予定

拝観先 ① 越生町・最勝寺へ阿弥陀如来・釈迦如来・四天王 ② 越生町・如意（ねおい）へ如意輪観音

③ 毛呂山町歴史民俗資料館へ ④ 桂木寺 ⑤ 釈迦如来 ○妙玄寺 ⑥ 十一面観音 ⑦ 毛呂山町・高福寺へ阿弥陀如

来

ご参加のお申込みは、ハガキに住所・氏名・会員番号・集合は①か②か・参加イベント名「越生・毛呂山・仏像拝観」と明記し、11月4日（水）までに〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。同じバスご希望の方は連名で。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加可。バス満員の場合はお断りの連絡をいたします。連絡がない場合はご参加いただけます。集合場所不明の場合は、その旨お書き添えください。当日緊急連絡電話090-4139-2740宮川

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成21年11月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

なんのこっちゃ???

副館長 井上 肇

ひと月前のことである。宮川会長さんから「ミュージアムマネジメントについて書けなくても書くのだ!」と、やさしい声で依頼された。こういう時の私の常は、「自分先である」と「この主題なら何とかなるやろ」といつものように、ホイホイと引き受けた。

しかし、老父母のQOLへの対応や甥っ子の結婚式への参加などを言い訳に、明日を数え、暁の斜光に束の間の勇気を貰いながら暮らしてしまった。今、締切り当日になって、いつものとおり懲りない性格を恨んでいる。

さて、還暦を目前にして、さらなる恥の上塗りは致命傷だと発起し、この会報にふさわしいなにがしかのことを書こうとしたが、「ミュージアムマネジメント」って、なんのこっちゃ。常日頃お題目のように唱えている割には、雲を掴むような頼りなさに気付かされた。大概のまっとうな学芸員なら、「先般の博物館法の改正で、学芸員資格取得の必修単位として博物館経営論の充実が図られ、……云々」、あるいは「博物館のあるべき姿を明らかにし、博物館利用者に満足や感動を与えるための理論と手法の総体であり、具体的には……云々」とかなんとか、焼きスルメを裂くように明快に書き出すであろうなあ、とついつい妄想してしまう。

話は変わる。昨秋、友の会では企画展「埼玉サッカー100年」の関連事業として、浦和コルソを会場に『ザ・カップ～夢のアンテナ～』を2日間上映した。ブータンで初めて制作されたこの作品の上映会が、友の会の地域コミュニティ・デビューとして記憶されている会員諸氏がいるならば、まだまだ油断ならない確かな未来に渾身のエールを贈りたい、やや微妙。冗談なのか本気かは問わないでほしい。私は冗談を真顔で言う修行はしていないが、成り行きで書くことは出来る。

話を戻すが、九州とほぼ同じ面積で、人口70万人に足りない小さな王国ブータンが、世界の注目を集めているのは、桃源郷に模される風景だけではない。国家経営理念に掲げているGNH（グロス・ナショナル・ハピネス＝国民総幸福）は、GNP（国民総生産）やTOPIX（東証株価指数）、はたまたTG（≡中性脂肪）に絡め取られている私が理解するには難渋だが、神秘的な薫香のようにも思える。

博物館は、経済活動の中心からほど遠く、これからも結果的には間違いなく距離を置くことになる。日本で圧倒的多数を占める地域博物館は、博物館資料や文化財を資源とした地域コミュニティの学びの場としての存在意義を自ら明らかにし、輝きをますためにGNHならぬGCH（グロス・コミュニティ・ハピネス）の旗に使命（ミッション）を染め抜き、評価の指標を研究しながら定めることが出来るか知らん!？。

学芸員らの専門家集団が創る伝える教育システムと、市民・住民など利用者が紡ぎ出す対話する学習システムとが交歓する「公共圏としての博物館」のマネジメントは、「あなたは、今、幸せですか」の問いかけを続けることかもしれない。

友の会トピックス

1.「花王コミュニティミュージアム・プログラム 2009」に、あなたのお手伝いが必要です！

前号でお願いいたしました「日曜大工さん急募」は、11月中に予定しておりましたところ、種々の突発事情発生により、12月に会員の方々にお手伝いをいただくイベント実施ということで、具体化させていただきます。詳細は「JUNO」12月号で発表させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

(11月19日(木)には役員、サポーターさんで試行をさせていただきます。)

友の会発足以来、3年有余たちましたが、会員による共同作業は初めてです。平日の作業ということになりそうですから、ご参加いただける方は一部になるかとは思われますが、それでも、みんなで力をあわせ、汗を流す共同作業はきっと、友の会の活動に新しい分野をひらくものだと思います。

楽しく、仲良く「モノツクリ」をいたしましょう。

2.里神楽の上演に頑張っている若者に協力しよう！

同封させていただきましたチラシでご覧のとおり、「江戸里神楽学生実行委員会」の第三回神楽公演が来年2月18日(木)に行なわれます。

友の会の会員さんは、夜の部にぜひお越しください、とのご依頼がありました。

夜の部は「天之岩戸」と「大蛇退治」のプログラム。

「天之岩戸」は岩戸に隠れていたアマテラスが再登場して「世の中」が明るくなるというお話。神様がたくさん登場すること、神楽のナンバーワンらしいです。

「大蛇退治」はスサノオが怖いオロチを退治する演目。これも神楽の定番。

アマテラスとスサノオという神様中の神様に会えるプログラムです。

午後8時終演ですから、そんなに遅くにはなりません。

真面目に里神楽公演に取り組んでいる若者たちにエールを送ろうではありませんか。

3.自画自賛する、このあとの友の会イベントは～

◎1月16日(土)「嵐山史跡の博物館元館長・梅沢太久夫さんとめぐる中世・比企の城館跡」
これまで国の史跡となっていたのは嵐山の「菅谷館跡」だけでした。平成20年に、これに「杉山城跡」「小倉城跡」「松山城跡」の三つが加わって国指定「比企城館跡群」となりました。これを一日で全部見てまわろうという史上初めてのバスツアー、しかもご案内・ご解説を梅沢太久夫さんをお願いするという、贅沢至極の見学会です。

◎2月27日(土)講演会「神社と日本文化～伊勢神宮と出雲大社の創祀～」

2月16日(火)に博物館のリニューアルオープンが行われて、久しぶりの講演会です。

講師は佐倉の国立歴史民俗博物館の新谷尚紀教授(民俗学)です。日本文化の基層である神社とは何か、あなたの永年の疑問が解ける糸口が見つかることでしょう。

◎3月7日(土)「ワークショップ・五人囃子と語る」 「花王コミュニティミュージアム・プログラム2009」の本番です。

◎3月28日(日)講演会「太田道灌と長尾景春」 講師は駿河台大学の黒田基樹准教授です。
身近な中世史をお聞かせいただきますよう。

◎3月(日時未定) 恒例の遺跡発掘現場の見学会を、今年も実施の予定です。

各イベントのご参加お申込みは、「JUNO」で詳細を発表してからにお願いいたします

4. 平成22年度のイベントの計画に着手しています

4月からのイベントの計画に着手しています。とりあえず、いま、決定していますのは4月25日(日)の講演会です。春成秀爾・国立歴史民俗博物館名誉教授に「古墳時代のはじまり」あたりについてのお話をしていただけるかと思えます。

その他、遠野物語刊行100年を記念したものなど、合計6本の講演会を計画しています。また、見学会も6本、平成23年春には、かねてより念願の1泊関西ツアーも行いたいと考えております。

5. 当会のNPO(特定非営利活動法人)化について、いかがお考えでしょうか

毎日の新聞に必ずといってもいいほど、載っている「NPO法人」。さまざまな分野で活動しています。当会の現状は「法人格」のない団体です。社会的な信用力が付くよう、また活動もしやすいように、法人格をとることも必要になってくるかと思われま。

一挙にはありませんが、ポツポツ、会員の皆さまと一緒に検討して行きたいと思えます。あなたは、いま、どのようにお考えでしょうか。

6. 博物館にぶら下がる「友の会」ではなく～

当会は博物館からの呼びかけにより作られました。

しかし、当初から、博物館の組織の中にあるものではありません。ほかの博物館友の会とは、違う「友の会」です。

博物館の職員の方が当会の事務をしたり、受付をしてくれたり～ということは基本的にはありません。また、費用を博物館からいただいたりもしていません。

人力が必要なところは、役員とサポーターの方の無償ボランティアに依っています。

資金は、皆さまがお出しいただく年会費と諸イベントからの「収益」に依っています。

見学会に参加する役員、サポーターは一般会員の方々と同じ参加費を払って参加しています。

なぜ、博物館から「ヒト」や「オカネ」を出してもらわないのか。いまは、そういう時代ではありません。それどころか、「博物館が整理される」時代なのです。

当会は、そんな時代に、博物館を応援する県民がこれだけいるんだ、ということを示すために作られたといってもよいでしょう。

この実態を、さらに強くお覚えいただき、お一人、お一人が、会のイベントにご参加いただき、サポーターとして、活動を支えていただき、役員として活動していただく～などで、「あなたの」友の会を支えてくださいますよう、お願いいたします。

山国・秩父・小鹿野

飯田八幡神社の

お祭り

小鹿野の歌舞伎、火縄銃演武、大名行列が一挙に！

ご案内 服部 武・博物館主任学芸員

日時 平成21年12月13日（日）

集合 午前8時・JR大宮駅西口・ソニックビル西側

参加費 6,000円（バス代・弁当代など）

ご参加お申込みは、ハガキに住所・氏名・会員番号・参加イベント名を明記し、12月4日（金）までに、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。同じバスご希望の場合は連名で。会員限定ですが、ご家族、お友達にご参加いただけます。お断りの連絡をしない場合はご参加いただけます。キャンセルはご遠慮ください。集合場所不明の場合は、地図をご請求ください。＜当日緊急電話090-4139-2740 宮川＞ ◎当日雨天の場合：吉田・龍勢会館、棕神社、両神・神怡館、法養寺薬師堂、甲源一刀流逸見道場、秩父・広見寺石経蔵、酒づくりの森～などを時間の許すかぎり見てまわる予定です。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成21年12月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

定 年 を 迎 え て

友の会会員 元 木 孝 (吉見町)

世間並みに60歳で定年を迎え、嘱託身分でプラス2年間、継続勤務し、長かったサラリーマンに終止符打つ。やっと自由な身分！金もタツプリアリ(言ってみたい)、時間もタツプリアリ！悠々自適で好きなことに邁進したいと願う「いま」です。

小生は、スムーズに第二の人生を過ごすために、現役の時からある程度、将来を見据え、三つのことを目標に掲げました。

第一に、山歩きです

四季を通じて歩きますが、芽吹き、新緑、高山植物の花、紅葉、雪山の展望、さまざまな表情を見せてくれる動物、小鳥などとの出会い、思いがけない幻想的な風景、昔かわらぬ里山の景色など、こころが清らかに、豊かになる感動をあじわうことができます。

一方、花粉症、森林の荒廃、自然林の保護と植林～など林業の問題点を知ったり、また、間伐による森林の復元現場を見ることもでき、現場の生の声を聞く機会もあります。

いつまでも、元気に好きなことができ、健康で体力を維持するためにも、山歩きは体を動かし、心身ともに健全になる有効手段として、実行しています。

第二に、地域とつながるボランティアです

現在、さきたま史跡の博物館と吉見町埋蔵文化財センターのボランティア活動を土・日・祝を主体に月4回程度、体験学習などのお手伝いをしています。

以前、少年野球の指導を10年ほど行なっていたこともあり、60歳を目途に、また、ボランティア活動をしようと考えていました。世間とのつながりは大切だと思っていましたから。

展示品等の説明には、世間話なども入れながら、入館者に、気持よく、また楽しくすごしていただくよう、努力しています。

入館者は、親子、中高年、カップル、団体客と様々ですが、世の中を垣間見ることも出来る、そして実地の勉強の場でもあり、こちらも楽しいひとときです。

さきたま史跡の博物館への活動動機は、古墳に興味をもって、自分なりに学んでいたときで、さらに深い知識が得られるのでは～と思ったからです。

吉見町の埋蔵文化財センターへは、町民としての地域への奉仕活動と文化財などの保護について、すこしでも、役に立ちたいとの希望から行き始めました。

第三に、学ぶことができる趣味を持つことです

以前から興味をもっていたところ、タイミングよく、某新聞の記事が目にとまり、参加したのが、古墳研究のサークルの古墳めぐりバスツアーでした。知識もあまりなく、とりあえず参加した感がありましたが、回を重ねる毎に面白くなり、日程があれば参加し、欠席のときには送られてくる資料を活用して、一人でも現場に行くという心がけ。しかし、古墳の場所は探すのに大変な労力で、ツアーには大感謝です。

また、博物館の友の会は様々なジャンルの講演や見学会があり、非常に有難いです。参加することで協力しています。(折を見て、お手伝いも！)

「好奇心」を失うことなく、常にテーマを見つけ、明日の予定を計画して前向きに歩いて生きたいと思っています。

友の会 トピックス

1.申しわけございません

前号および前々号で、「花王・コミュニティミュージアム・プログラム 2009」のイベントに使用するサイコロ作りについて、会員の皆さまのご協力をお願いする記事を掲載させていただきましたが、11月19日(木)に理事・サポーターの方々13人がお集まりいただき、実験的に製作を行なっていただきましたところ、情熱的に仕事をこなしていただき、計画であるサイコロ20個が全部出来上がってしまいました。

つきましては、せっかく、腕をふるってやろうと満を持してご待機いただいた方々に申し訳ないこととなってしまいました。お許しをいただきまして、次の機会にはぜひ、お手伝いいただきますよう、お願いを申し上げます。

また、当日、汗を流していただきました皆さまと、材料をお安くご提供いただきました会員の西島 孝さん(越谷市)には、厚くお礼を申し上げます。

2.会員数 500 名を目指して

当会では、その設立趣旨として「博物館の応援をする」ということを掲げています。友の会が多くの会員を擁することは、それだけ「博物館のファン」がいることの大きな証明になります。

友の会があっても、会員数がすくないと、「なんだ、博物館を愛するひとなんて、少ないんだ」と考えられてしまいます。「そんな博物館だったら、予算、人員を少なくしたって、文句をいわれないだろう」と思われてしまっは大変です。

皆さまの熱意により、昨年度末には会員数 386 というところまで、こぎつけました。今年は博物館のリニューアル工事があって、4月からの退会者の穴埋めにすこし及ばず、現在(10月末)の会員数は 369 名です。

とりあえずの目標は会員数 500 でしょうね。会員を増やすのに一番有力なのは、やはり会員の皆さまの「お声かけ」です。品物を買われる際に効果的なのは、優れた広告やセールスマンの甘い言葉ではなく、身近な愛用者のおすすめのひとことなのです。

1月からは、例年のおりご入会の際の年会費は、次年度の会費に充当させていただくため、新規ご入会の方は1~3月の会費は実質無料となります。

この制度を使って、同好のお友達、ご親戚、ご近所の方に「友の会へのご入会」を、事あるごとにお勧めくださいますよう、お願いを申上げる次第です。

「会員数 500 のため」に、ぜひ、ぜひ、ご支援、ご協力をお願いいたします。

そして、あなたの会員ご継続のほうも、よろしく!

<入会おすすめの資料をご希望の方は 048-975-9139 宮川まで。お電話・FAXにて。あなたへご送付、あるいは相手の方へ直送、いずれでも結構です、ご指示ください。>

3.会員のご更新は 1 月から

JUNO の 1 月号に、振替用紙を同封させていただきますので、それをお使ください。2 月 16 日(火)からリニューアルオープンの博物館ではその後の「土日祭」に受付させていただきます。

4.江戸里神楽公演・キップ売切れ

前号でお願いいたしました同公演(2月18日夜)の当会あて割り当て 10 枚につきましては、皆さまのご協力により完売したとのこと。実行委員会からお礼のお便りをいただきました。

きく・見る・ふれる 五人ばやし

博物館からキックオフ事業＝ワークショップ～五人囃子と語る＝

「花王・コミュニティミュージアム・プログラム2009」の助成金を
いただいたイベントのプランが決まりつつあります。（場所は博物館講堂）

主として子どものための能楽ワークショップ

平成22年3月7日（日） 午前10時30分～12時

居囃子＜石橋＞と舞囃子＜融（クツロギ）＞の実演。四つの
楽器にふれてみる。謡＜高砂＞の解説と体験。

主としておとなのための五人ばやしによる能楽入門

同日 午後1時30分～3時

居（舞）囃子＜船弁慶＞の実演。シテ方・囃子方の解説。

演目は「高砂」（装束付）。

ご出演はいずれも観世流・梅若泰志さん、能楽笛方・成田寛人さんなど。

参加費は無料。電話による事前申込み要となる予定です。

その他、5月と8月には「五人囃子による
能楽入門」講座を実施の予定です。

また、解説パンフレットの発行も考えております。

3月7日（日）のイベントには、ぜひともご参加いただきたく、お願い申し上げます。そして、
受付・会場担当・写真・照明など、分担していただきたい仕事がいっぱいあります。
はじめての友の会・協同作業です。一緒に汗をかいて、ますます友の会の組織力をアップしてゆ
きたいと考えております。

正式決定次第、新規サポーターさんを募集させていただくこととなります。その折は、ぜひ、ご
協力くださいますよう、お願いいたします。

五人囃子から入って、能楽に関心をもち、そして、郷土の再発見を楽しまれるという方々が増え
れば、このプログラムが活きた！ということになります。友の会全員でがんばりましょう。

比企の四城を攻め落とせ

目指すは、国指定史跡となった松山、菅谷、小倉、杉山の四城―ご案内・ご説明は元埼玉県立歴史資料館館長の梅沢太夫先生。ぜひ、あなたもこの城攻めにご参加されんことを！

☆松山城Ⅱ松山合戦で知られる名城 ☆菅谷館Ⅱ畠山重忠館の伝承を持つ戦国時代の広大な平城 ☆小倉城Ⅱ関東では珍しい石垣を持つ城 ☆杉山城Ⅱ戦国期城郭の最高傑作 いずれも、鎌倉から戦国に、比企を巻き込んだ戦乱のなか
に築城された城館。あなたは山に、木に、堀に、あたりをかけたぐった武士たちの息吹きを感じ取られることでしょう。

○実施日Ⅱ平成22年1月16日(土) ○集合Ⅱ①午前8時・大宮駅西口・ソニックビル西側 ②午前8時45分・
本川越、Pepe前、交番横 ○参加費Ⅱ6千円(バス代・昼食・資料代など) ○滑りにくい靴などハイキング仕
様でお出かけください

ご参加お申込みは、ハガキに住所・氏名・会員番号・電話番号・集合は①か②か・参加イベント名「比企城館址」と明記し、1月7日(木)までに〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。会員限定ですが、ご家族、お友達は参加可。同じバスご希望の場合は連名で。バス満員の場合は先着順とし、お断りの連絡をいたします。連絡がない場合はご参加いただけます。集合場所不明の場合は、その旨お書き添えください。当日緊急連絡電話 090-4139-2740 宮川

平成22年1月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

博物館「劇場」論

友の会会長 宮川 進

毎年のごとですが、私も属しているNPO法人越谷市郷土研究会では、市内の西方小学校さんからのご依頼を受けて、同校4年生の社会科見学「逆川たんけん」のお手伝いをさせていただいています。

生徒さんは、市内の瓦曽根溜井の近くにある学校から、溜井のそもそもの水源である葛西用水（逆川）に沿って、古利根川からの取水口まで歩きます。私たちは途中のいくつかの史跡に立って、グループ別に次々とやってくる生徒さん達に史跡の説明をします。

その際、市内最古、最大の板碑である建長板碑（建長元年）の前では、ダンボールで作った「兜」をかぶって、また、家康が愛した越谷御殿跡では、家康の肖像画のお面をかぶって説明をします。単なる説明だけではなく、歴史を楽しく感じ、覚えていただくための工夫をしているのです。

これから、中学校や高校へ行って本格的に鎌倉時代のことや家康のことを学ぶとき、生徒さん達はきっと、越谷にあった史跡のことを思い出してくれると思っています。

ところで、博物館、歴史系博物館一般のことを言うわけですが、そこでは展示物はショーケースの中です。最近では、一部の博物館でケースの下に引出しを設けて、見学者がもっと資料を見たいときに引き出して、より近いところで見られるようにしているところもありますが、見学者と資料とは基本的に無情なガラスで、間を隔てられているのです。

いったい、博物館の資料とは何なのでしょう。保存のためを兼ねて展示されている貴重な遺物（国宝など）もあります。しかし、それが博物館に存在する意味の多くは、見学者にそれを見ることによって過去の歴史を想像させるカギ、媒体ではないかと思うのです。であれば見学者がそういうことが出来やすいようにしなくてはいけないのではないのでしょうか。その媒体をイチバン最高に楽しく、イチバン最高に印象に残るよう使うべきであると思います。博物館は、その方法を一生懸命考えるべきなのでしょう。

それを考えて実行したのが、旭川の旭山動物園であると思います。これまでの動物園といえば、動物を自然のままの姿で見せるということで、何の工夫もなかったのですが、「もっと、動物の素晴らしい能力、生きていることの素晴らしさを実感できるように～」と意図したのが、いまの評判を呼んだのでしょう。

歴史系博物館では、なぜ、この旭山動物園のような試みを行なわないのでしょうか。自分たちの扱っているのは、そんな動物どもではなく、人類の歴史を語る「宝物」なのだ。だから、見せてやるものを、黙って見ればよいのだ～というのでしょうか。こういう試みなら、やる気と知恵があれば予算がなくても出来ることは出来ると思うのですが～

考えてみれば、見学者はショーケースの中に入っているものの意味もあまり分からずに、分かったような顔をして通り過ぎてきたのです。しかし、本当はそれらを面白く見たかった、触れたかったのです。

ショーケースの横で縄文人が土器を作っていたり、彩色した顔の古墳時代人が物陰から飛び出したり～の姿が見られたら、と思います。のこのこと展示の通路を歩いている「鎧、兜の武人」、竹やりの指導をしてくれるもんぺ姿の戦時中の主婦、獅子舞の獅子頭をかぶっている受付さん～を見たいのです。そんな光景を見せてくれる博物館が、これから出来てくることでしょうか。そういう流れを作ってゆくの、私たちのこの博物館であつたらいいな～そんなふうに思っています。

以前、浦安市郷土博物館に建てられた漁師の家の実物模型で、紛れこんだのか、漁師のオジサンが畳のうえで寝っころがっているのを見ました。まさに生活感あふれる、そしてドッキリの光景でありました。

あけまして、おめでとうございます 今年もみんなで元気にがんばりましょう!

平成 22 年元旦

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

友の会トピックス

1. 博物館リフレッシュオープン(H22.2.16(火))に伴うイベント

◎民俗関係の新展示オープン記念映画会 2月16日(火) 午後1時半から、於・講堂

◎近現代関係の新展示オープン記念映画会 2月23日(火) " "

<参加申込み方法など未定。次号ニュースでお知らせします。実施日が平日であるため、友の会会員の参加が期待されています>

2. 平成 22 年度・博物館の特別展・企画展の予定見込み

<あくまでも計画ですので、ご了承ください>

◎特別展「雑兵物語の世界」 3月20日(土)～5月9日(日)

◎企画展「ヒーロー見参」 7月17日(土)～8月31日(日)

◎特別展「埼玉の古代寺院」 10月9日(土)～11月14日(日)

◎企画展「出張博物館in上里」H23年2月12日(土)～2月23日(日)

◎特別展「降嫁150年 和宮」 " 3月26日(土)～5月8日(日)

3. 「嵐山重忠とその時代」シンポジウムへ、ご参加ください

チラシを同封いたしました。ぜひ、1月24日(日)の「嵐山史跡の博物館」主催シンポジウムへ、お足をお運びください。

締め切りが1月12日というところを、当会会員だけは1月16日(土)必着としていただきました。「友の会会員」とご明記のうえ、往復ハガキでお申込みください。

前当館館長の藤野館長がお待ちになっておられます。

「五人ばやし」ワークショップにご協力をお願いいたします

いよいよ実施日の3月7日(日)が近づいています。

会員の皆さまに、次のようなご協力をいただきたく、お願いを申し上げます。

(1) 前日(3月6日・午前9時半から)の準備と当日(午前9時から)、ビデオ(あるいはDVD)で、記録いただける方

(2) ①前日(3月6日・午前9時半から)の準備、②当日(午前9時から)の舞台、会場の設営と③当日の撤収について、ご協力いただける方

(3) 五人ばやし、能楽入門の簡単な解説パンフレット作成について、ご協力いただける方
5月完成を予定しています。企画から構成、編集などにご協力をお願いしたいと思います。

ご協力いただける方は、お手数ですが、1月20日(水)までにFAXで048-975-9139 宮川へ、ご連絡をお願い申し上げます。

年会費・ご更新をお願いいたします

4月が会員資格ご更新の時期です。ぜひ、ご継続をお願いいたします。今回、このニュースに同封させていただきました振替用紙をご利用ください。

きく・見る・ふれる 五人ばやし

博物館からキックオフ事業＝ワークショップ～五人囃子と語る＝

段飾りに三段目に置かれている「五人囃子」。これは能楽の音楽演奏チームなのです。ひな祭りが終わって、すこしオヒマになったクアルテットさんの演奏をきき、楽器を見たり、ふれさせていただけたりしませんか？

主として子どものための能楽ワークショップ

平成22年3月7日(日) 午前10時30分～12時

居囃子<石橋>と舞囃子<融(クツロギ)>の実演。四つの

楽器にふれてみる。謡<高砂>の解説と体験。

主としておとなのための五人ばやしによる能楽入門

同日 午後1時30分～3時

居(舞)囃子<船弁慶>の実演。シテ方・囃子方の解説、演目は「高砂」(装束付)。

いずれも、ご出演は梅若泰志(観世流)、成田寛人(笛・一噌流)、船戸昭弘(小鼓・

幸清流)、大倉慶乃介(大鼓・大倉流)、大川典良(太鼓・金春流)のみなさん

参加無料・要事前申込み

参加お申込みは、2月8日(月)午前9時<厳守>から、048-645-8171・埼玉県立歴史と民俗の博物館へ。午前の部、午後の部、どちらかをご指定ください。締切2月28日(日)。午前の部は小・中学生とその保護者の定員60名、その他の定員40名。午後の部の定員は100名。定員超過次第、締切らせていただきます。(友の会会員は会員番号もお申し出ください。)

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

(〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219)

協賛 岩槻人形協同組合

神社と日本文化

— 伊勢神宮と出雲大社の創祀 —

神社とは何なのか？ 私たちは神社というものに対する考え方をどのように形成してきたのか？ 神社を日本文化という大きな流れの中で考えるとどうなるのか？ そして、日本の古代王権と伊勢、出雲との関係の根底にあるものは？
あなたの抱くいっぱい「謎」を解きほぐすお話を、ぜひ、お聴きになってください。

講師 新谷尚紀先生

(国立歴史民俗博物館 教授)

日時 平成22年2月27日(土)

午後1時30分～3時

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

東武野田線・大宮公園駅下車5分

参加無料 要・事前申込み

ご参加のお申込みはハガキに住所・氏名・電話番号・友の会会員は会員番号を明記し、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切2月23日(火)。定員150名。オーバーの場合は先着順とさせていただきます。連絡がない場合はご参加いただけます。

主催 埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成22年2月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

手 仕 事 の 思 想

館 長 矢 部 保 雄

友の会の皆様には常日頃大変お世話になっております。心から感謝申し上げます。

「歴史を学ぶ面白さと気楽さ」「人生の醍醐味」「行田八幡山古墳の被葬者に関する管見」「定年を迎えて」等会員の皆様のお話興味深く読ませていただきました。今後も楽しみにしております。

さて、私ごとです。朝の通勤途上、金網のフェンスをめぐらしているマンションがあり、桜の大木が並んでいる。幹が曲がり境界線をはみ出した1本の桜がある。地上から1メートル強の高さのところのフェンスをまっすぐにするため、その大木のはみ出した部分が削られている。痛々しい限りである。

息白し桜木の幹赤くなり

次に、通勤帰りの出来事である。いつも通りのみちから、一角曲がりを変えた光景である。見事な赤松が一本目についた。近づいてみると、何とその家の二階の屋根が妙な形をしている。よく見ると、松の木を守るために屋根の部分が窪んでいる。屋根の作り方を工夫したあとが何とも微笑ましい。

赤松の雄々しさ溢る冬の空

高度成長期を境にして、日本の技が伝承の危機にある。手仕事が主流だった時代は作り手にとって使い手の顔が見えた。手仕事の時代には職人が存在し、それを支える社会があり、そこに倫理と生き方としての職業観があった。

今時代は明らかに別の方向へ進んでいる。

私たちは手仕事の世界を終焉させてしまうのだろうか。

職人が桜の木のフェンスを作業する時、規格品をそのまま設置すれば木を切らざるを得ない。しかし、一工夫すれば・・・、人としての手仕事の思想が残っていれば・・・、違う結果となるのではないか。もちろんオーナーの意向を無視はできないであろうが。

手は思想の表現であるはずだ。それはまた、その時代に生きる人間の思想そのものである。

私たちはこれからどう生きるようとするのだろうか。博物館の使命は限りない。

2月16日、博物館のリフレッシュオープンを記念して、矢部館長に玉稿を頂戴いたしました。お礼を申し上げますとともに、博物館のますますのご発展を会員一同とともに、お祈り申し上げます。

友の会トピックス

1.平成 22 年度の友の会イベントラインアップ、決定へ

4 月からの行事計画が少しずつ決まってきました。ぜひ、ご参加のほど、よろしくお願いいたします。
(年間に講演会 6、見学会 6 の予定です)

◎4 月 25 日 (日)

講演会「卑弥呼と箸墓古墳」 ついに邪馬台国は近畿説で決定か？

講師：国立歴史民俗博物館名誉教授 春成秀爾先生

◎5 月 23 日 (日)

講演会「民俗学と現代～『遠野物語』100 年にちなんで～」 「遠野物語」の第一人者です～

講師：東京学芸大学教授 石井正己先生

◎6 月 (日にち未定)

見学会「那須風土記の丘周辺」 ここにも謎の前方後方墳！ そして日本三古碑の一つが～

◎7 月 24 日 (土)

講演会「日本書紀の編者たち」(仮) 誰が「日本書紀」を書いたのか～

講師：成城大学・早稲田大学兼任講師 加藤謙吉先生

◎8 月 (日にち未定)

見学会「出土品展と熊谷周辺」

◎9 月 11 日 (土)

講演会 (題名未定)

講師：作家 高橋千剣破先生

2.今年度のイベントにも、ご参加をお待ちしています

◎2 月 27 日 (土)

講演会「神社と日本文化—伊勢神宮と出雲大社の創祀」

講師：国立歴史民俗博物館教授 新谷尚紀先生

◎3 月 7 日 (日)

ワークショップ「きく 見る ふれる 五人ばやし」

◎3 月 17 日 (水)

見学会「発掘現場見学・川島町三竹遺跡」

◎3 月 28 日 (日)

講演会「太田道灌と長尾景春」

講師：駿河台大学准教授 黒田基樹先生

3.イベントお申込みは、お早めに！

当会の方針としては、見学会は会員とその家族・知人に限定。講演会は一般の方々にも公開を原則としております。

ただ、情報は早めにお知らせしております。この時間差を、極力、ご利用いただいて、お早くお申込みいただきたいのです。

せっかくの特典をぜひぜひ、ご活用ください。

<見学会の参加費はリーズナブルです。しかも、専門の講師つき！ もっともっとご参加をお考えください>

3月7日(日)・「きく 見る ぶれる 五人ばやし」イベントニュース

◎「老松」完成

昨年「能舞台」サイコロ作成完了のあと、1月には、その舞台の背景となる「老松」の絵を描く作業が完成しました。さいわいなことに、友の会理事の方々のなかに絵画を趣味とされる方がおられ、そのご指導のもとに小下図と大下図の作成、転写、現物彩色のプロセスを経て、たて2間、よこ3間の巨大な布に名画「老松」の共同製作が完成したものです。

ご参加の皆さま、ご苦労さまでした。

◎お子さま向けチラシ、市内の小学校5年生、6年生全員配布

博物館のご協力により、全員約25,000人への学校を通じた配布を行なわせていただきました。お孫さんが学校から持ち帰っておられるかも知れません。ぜひ、ご参加へ一声おかけください。

◎おとな向けチラシも完成、あなたも配布へご協力いただけますか？

おとな向けのA4チラシもできています。少しずつ、お近くの公民館、図書館などへお配りいただいています。ぜひ、あなたもお心あたりの施設のチラシ置き場へ置かせてくださるよう、お願いしていただけますか？

チラシは博物館に置かせていただいていますので、お声かけください。

◎岩槻・東玉さんから、「七段かざり」と「五人ばやし」を貸していただきました

東玉さんが、このイベントに花を添えるため、博物館ロビーに置く「七段かざり」と五人囃子の演奏イベントの場所に置く「五人ばやし」人形をお貸しくございました。

ありがとうございました。お礼を申し上げます。

◎いよいよ、参加申込み受付へ

2月8日(月)から、参加申込みがはじまりました。お申込みは博物館(048-645-8171)へ、お電話で。午前、午後の別と、友の会会員は会員番号をお忘れなくお申し出ください。定員がありますので、お早く！

友の会トピックス(2)

4.会員ご更新をお願いいたします

今回も振込み票を同封させていただきました。22年度のご更新をよろしくお願い申し上げます。新会員証の送付は、次回のニュースの時となります。到着まで、郵便局の受取をお持ちください。

5.博物館のリフレッシュオープンイベント映画会へ行こう！

2月16日(火) 午後1時半「おくりびと」	無料	博物館講堂で
23日(火) // 「キューポラのある街」	//	//

会員・宮崎恵子さんの「飯田八幡神社ご祭礼」見学記

くこのニュースには、すでに行なわれた行事のご感想などは原則として掲載しておりませんが、宮崎さんから寄せられた見学記は、今後の民俗行事見学における「眼のつけどころ」として、大変参考になるものを含んでいると考え、ここに載せさせていただきます>

12月13日、友の会のおせわで、たいへん充実のひとつきを飯田八幡神社の御祭礼見物にて過ごしましたので、お世話を頂いて誠にありがたく御礼を申し上げます。

なかなか見学できないところを御案内いただき、素人なりに見まして、何とも言えない感慨に浸っております。

まず第一に「のぼり」をよく見ました。いつごろ誰の奉納で誰の書であるか、などです。境内の石碑やほこらなどもよく見ました。近くの墓などもくまなく、よく（失礼ながら）拝見させて頂いて、どんな方が有力者だったかなども少し見当をつけました。墓石の古いのには寛文年間のがありました。

見どころ満載のおまつりで、どこに目をつけていいか、迷いましたが、「神馬」を主に見ることになりました、昔は農耕馬がいたり、下肥を集めに来た馬など、昭和30年代初まで、身近な動物だったのですが、現代の祭りではどうやって調達？するのかと思ったので～。

北海道産の2頭の馬の馬主は熊谷の渋沢さんとプレートにありました。神馬のこしらえをするところで、ずっと支度を一部始終見ていたのですが、花のついた記章の「馬主」というのをつけた男性に「渋沢さんですか？」と訊いたら違って、静岡から来たそうです。馬を昨夜10時に発って朝8時着で搬送したと言っていました。

3歳馬はどう見ても競走馬とは違い、ズングリした体型で、足が太くて、今どき、どんな役目に飼育されたのかと思いました。黒いほうは980kg、茶色いほうは960kgあるということでした。このお役目がおわるとサクラ肉になるのだといっていました。黒いほうは非常に性格がおちついていて、おだやかで、茶色いほうはやんちゃ盛りという感じです。たった2～3時間のお馬さんウォッチングでも情が湧いてきて「お立ち」の時は、とても名状しがたい思いで「がんばれー！！」と手を合わせるような心持ちでした。

また、このお祭りの成立には沿道に「〇〇会所という小さい自治組織」の看板のある建物がいくつもあって、地元のコミュニティが信じがたい結束で機能しているらしいことが分かりました。おどろきでした。

（バスのお隣の席に座らせていただいたMさんには、一日、ご同行して、楽しくすごさせていただいたことを、お礼申し上げます）

以上



早春の古代遺跡ウォーク

さあ、今年も遺跡発掘の見学会の季節がやってきました。みんなで遺跡発掘現場を見学させていただきますましょう。

川島町で、いま、埼玉県埋蔵文化財調査事業団が発掘中の「川島町三竹遺跡」です。

遺跡は比企郡川島町出丸中郷にあり、縄文時代前期・中期、古墳時代、平安時代、江戸時代の集落址、古墳などが見つかっています。

そのあと、以前は県内でイチバン古い古墳と思われていた桶川市熊野神社古墳をみて、重要文化財・木彫阿弥陀如来坐像のある泉福寺に寄らせていただき、桶川駅へです。

総歩行距離は約5キロ。あたたかい春の風に吹かれながら、古代の人たちも歩いた荒川の右岸、左岸をたどりましょう。

ご案内 博物館・宮 昌之・学芸主幹
実施日 平成22年3月17日(水)
集合 午前9時・JR上尾駅西口
昼食 かならず、ご持参ください

行程：上尾駅発9:15＝(東武バス・川越駅行き)＝入間大橋着9:30－
三竹遺跡－荒川土手で昼食－熊野神社古墳－泉福寺－柏原＝(東武バス
・桶川駅行き)＝桶川駅着 <解散予定16:00>

<川越方面からの方は東武バス「上尾駅西口行き・川越駅発9:10＝入間
大橋着9:35」でお越しください。入間大橋バス停でお会いしましょう。

お帰りは柏原で、川越駅行きにご乗車いただけます>

参加費 資料代100円 ほかにバス代 上尾から往復590円・川越から往復780円

ご参加ご希望の方はハガキに住所・氏名・電話番号を記入し、3月

10日(水)までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。ご返事はいたしません。お

申込みの方はご参加いただけます。ご家族、お友達にご参加可。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

太田道灌と 長尾景春

講師 駿河台大学准教授 黒田基樹先生

日時 平成22年3月28日(日) 午後1時半～3時

場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

(東武野田線・大宮公園駅下車5分)

文明5(1473)年、上杉(山内)顕定はその家宰・長尾景信が死去すると、景信の弟忠景に家宰を継がせることとした。景信の嫡子景春はこの処遇を不満とし、各地の国人たちを誘い武蔵、相模の各地で蜂起。顕定が上杉(扇谷)定正らとともに上野国に退去せざるをえなくなったほどの勢い。しかし、定正の家宰・太田道灌は景春を用土原(寄居町)や鉢形城などに攻め、ついに文明12(1480)年、日野城(秩父市)の景春を破って、この「長尾景春の乱」を終わらせた。

埼玉県を主な舞台とした、「シェクスピアの悲劇」のようなドラマティックなお話を、ぜひ、お聴きください!

ご参加無料

ご参加のお申込みはハガキに住所・氏名・電話番号・友の会会員の方は会員番号を記入、平成22年3月23日(火)必着で〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名。(定員を超えた場合は、その時点で締め切ります。ご連絡をしない場合はご参加いただけます)

埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

平成22年3月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

古代人からも元気をいただくこと

友の会理事 橋本九二男

ある年、ごく普通の年金生活者が現役時代のシガラミから自由となった時、急に「この国の過去と明日のこと」に興味を沸き、改めて図書館とか歴史博物館通いが好きとなり、そこで「人生の新たな元気」をいただいています。

さて、埼玉県歴史と民俗の博物館友の会に加入して3年、熱心な歴史・民俗研究者のお仲間に、一介の歴史愛好者も加えていただき、お陰様で、歴史への一層の好奇心と、「人の時間と空間のアヤ、天変地異の運・不運」に、歴史の必然性と偶然性を思いながら、おくれればせ乍ら、歴史と人生論を学んでいます。

友の会は楽しい会です。どうぞ、歴男・歴女はもとより、歴史イベントや場造りに関心がある方も、ご加入を大歓迎です。

さて、一介の歴史愛好者が埼玉県の歴史に関心を高めたのは、約30年前の、当時の考古学・歴史学に大きなインパクトを与えた出来事があり、古代史の解明を大いに飛躍させた、「さきたま古墳群・稲荷山古墳出土の鉄剣・金錯文字：115文字」で、後の公開解説文を読んで、古代人を身近な人を感じる。

古代人の名は「乎獲臣：オワケノオミ」と云い、杖刀人=武人として大王家に奉仕したと云う。その115文字の刻印メッセージからは、「この世に存在した系譜と、何のために生きたかを誇らしげに記し、いつの世か、誰かに読んで欲しい願い」が叫び声の様に、生き活きと伝わってきます。

古代人の「かくして生きた」との叫びには、おそらく、過酷な条件にあった中で「かくして生き延びた」の想いもあり、現代人にも共感できるものであります。いつの時代でも、「生きることへの執着」と同じく、「どの様に生きたのか？」も重要です。ある人は文字に、ある人は工芸品や建造物に、または万葉歌や踊りに、そのメッセージを刷り込ませ伝え残す。

今、熟年世代が「如何なる人生であったのか？」を問う時、国内外問わず、歴史上のメッセージは生きる知恵と教訓にもなり、人生の仕上げ事にも繋がります。こうした「熟年世代の学びと楽しみ場」としても、歴史と民俗の博物館および友の会の存在意義と思い、益々の発展を願うものです。

歴男・歴女の皆さま、この門も開かれています。

当会ニュースの題名「JUNO」は博物館の展示入口にあつて、各年代の物差しとして使われている「寿能泥炭層遺跡」の「寿能」にちなんだものです。「JUNO」はローマ神話では、ジュピターの妻で女性の守護神、気品の高い美人のことでもあります。

きく・見る・ふれる 五人ばやし

博物館からキックオフ事業＝ワークショップ～五人囃子と語る＝

午前・95名、午後・133名のご参加をいただきました！

メインイベントである3月7日（日）のワークショップは、午前中は小学生の皆さんを、午後是一般を、それぞれ対象として開催いたしました。

観世流の梅若泰志、加藤真悟、松山隆之、笛・一噌流の成田寛人、小鼓・幸清流の船戸昭弘、大鼓・大倉流の大倉慶之助、太鼓・金春流の大川典良という方々のご出演をいただき、囃子や能の実演、四つの楽器を鳴らす体験、質問コーナーまで、楽しい時間をもつことができました。



ご協力をいただいた理事、サポーター、そして一般会員の方々に、こころからの謝意を表すものです。皆様のご協力がなければ、このイベントはできなかったのですから～

なお、5月16日（日）と9月5日（日）、能楽入門講座を行ないます。ぜひご参加を！

友の会トピックス

◎講演会の参加者殺到で、てんやわんや！

2月28日（日）開催の新谷尚紀先生の講演会「神社と日本文化」はご参加希望が多く、とりあえずの名簿を200名で作成し、170名の方にお断りの電話をいたしました。結局、当日は兩で参加者は172名となりましたが～

お断りした方のなかにも会員が10名ほどおられました。イベント開催については一般へのお知らせの前に、「JUNO」でお知らせしています。ぜひ、この時間差を活かしてください。会員の方にお断りをするような悲しいことが起こりませんよう、お願いをいたします。

◎とはいうものの、お早めすぎるお申込みは、ご遠慮ください

お申込みは「JUNO」で正式に時間、場所を含めたお知らせをしたあとからなさってください。

お申込みハガキの保管とかが万全でないからです。そして、お知らせ後、すぐのお申込みでしたら、満員お断りをすることはありませんから。ご配慮をお願いいたします。

◎会員数396となりました あなたのお知り合いもぜひ！

2月末の当会会員数が396と、400まで、あと一步のところまでできました。4月の新年度スタートが新入会を呼びかけるチャンスです。会員数500人達成のため、さらに一声のご協力を！

ご期待ください！友の会・平成22年度の予定

平成22年度も、県内の文化団体のなかでイチバンの知的なイベントを実施いたします。

◎4月25日(日)

講演会「卑弥呼と箸墓古墳」 ついに邪馬台国は近畿説で決定か？

講師：国立歴史民俗博物館名誉教授 春成秀爾先生

◎5月16日(日)

＜「きく 見る ふれる 五人ばやし」イベント 能楽入門講座＞

講師 観世流 梅若泰志先生 (桶川市出身)

◎5月23日(日)

講演会「民俗学と現代～『遠野物語』100年にちなんで～」 「遠野物語」の第一人者です～

講師：東京学芸大学教授 石井正己先生

◎6月6日(日)

見学会「那須風土記の丘周辺」 ここにも謎の前方後方墳！ そして日本三古碑の一つが～

◎6月26日(土)

映画会「梅むら夫婦」「赤い糸」

＜行田市生まれ・育ちの新進気鋭の女流映像作家・茂木薫さんの作品の上映です＞

◎7月24日(土)

講演会「日本書紀の編者たち」(仮) 誰が「日本書紀」を書いたのか～

講師：成城大学・早稲田大学兼任講師 加藤謙吉先生

◎8月(日にち未定)

見学会「出土品展と熊谷周辺」

◎9月5日(日)

＜「きく 見る ふれる 五人ばやし」イベント 能楽入門講座＞

◎9月11日(土)

講演会(題名未定)

講師：作家 高橋千剣破先生

◎10月(日にち未定)

見学会「三富新田と車人形を見る」

◎12月(日にち未定)

講演会「絵画史料を読み解く」(仮題)

講師：群馬県立歴史博物館館長 東京大学名誉教授 黒田日出男先生

◎12月(日にち未定)

見学会「栃木県立博物館と宇都宮周辺」

◎1月(日にち未定)

見学会「行き先未定」

◎2月(日にち未定)

一泊見学会「お水取りと奈良の都の移り変わり」

◎3月(日にち未定)

講演会(題名・講師・未定)

◎3月(日にち未定)

発掘現場見学会「行き先未定」

＜今後、変更することがあります。詳細については、友の会ニュース「JUNO」で発表します＞ 103

卑弥呼と箸墓古墳

永年の「邪馬台国」論争、ここ大宮で、ついに終止符を打つか？

古代ロマンの国・吉備を最初のフィールドとされ、そして弥生時代から古墳時代への転換期を研究されてきた春成先生が語る！
箸墓の築造年代、そして「卑弥呼」「邪馬台国」とは何か～

日本古代史の闇が晴れるのは、この日。

講師 春成秀爾先生

<国立歴史民俗博物館・名誉教授>

日時 平成22年4月25日(日)

午後1時半～3時

場所 埼玉県立歴史と民俗の博物館講堂

<東武野田線・大宮公園駅下車5分>

ご参加無料

ご参加のお申込みはハガキに講演会の名前、住所・氏名・電話番号・友の会会員は会員番号を記入、平成22年4月20日(火)必着で〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。
定員150名。定員を超えた場合は、その時点で締め切ります。お断りのご連絡をしない場合はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219